

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	白子町立白瀉小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	1	2	2	2	2	12	15
児童数	39	43	39	42	43	48	2	256	

II 研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の定着を図るための効果的な指導法について
 —— 国語「C読むこと」の指導と総合的な学習を通して ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・国語
 学校として、当該教科に関する研究実績があるため
 ・3～6年生・総合的な学習
 これまでの国語科の研究成果が総合的な学習へ現れてきたため、さらに教科の枠を広げ、研究に取り組むため。

(2) 年次ごとの計画

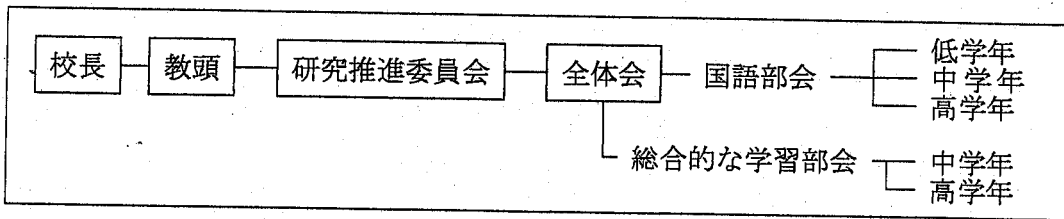
平成15年度

- テーマ
 国語「C読むこと」の指導と総合的な学習を通して、基礎・基本の定着を図るためにどのような指導や支援の工夫をしたらよいか明らかにする。
- 研究の見通し(仮説)
 (1) 国語科の「C読むこと」の学習を積み重ねることにより、基本的な学力が備わり、言語感覚が養われ、言語で伝え合う力の基礎が培われるであろう。
 (2) 総合的な学習の時間の中で、個に応じた支援や評価の在り方を工夫していけば、自分の思いや考えを表現する力が育つであろう。
- 研究の内容・方法
 (1) 全学年で、基本的な言語能力を育成するために、国語「C読むこと」の指導の工夫・改善に取り組む。
 (2) 総合的な学習の中で、個に応じた支援や評価の在り方を工夫する。

平成16年度

- テーマ
 国語「C読むこと」の指導と総合的な学習を通して、基礎・基本の定着を図るためにどのような指導や支援の工夫をしたらよいか明らかにする。
- 研究の見通し
 (1) 国語科の「C読むこと」の学習を積み重ねることにより、基本的な学力が備わり、言語感覚が養われ、言語で伝え合う力の基礎が培われるであろう。
 (2) 総合的な学習の時間の中で、個に応じた支援や評価の在り方を工夫していけば、自分の思いや考えを表現する力が育つであろう。
- 研究の内容・方法
 (1) 全学年で、基本的な言語能力を育成するために、国語「C読むこと」の指導の工夫・改善に取り組む。
 (2) 総合的な学習の中で、個に応じた支援や評価の在り方を工夫する。

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

*仮説1に関して (H15.6→H16.2実態調査より)

- ・全学年を通して、国語への関心・意欲が高まった。(約5%増)
- ・音読カードや学習の始めや終わりでの音読、ワークシート等の活用の工夫により、読むことに慣れ、音読力がついてきた。
- ・低学年…はっきりした声で読める児童が増え、気持ちを込めて読めるようになり、物語等を読むことに対する関心も高まった。(69.1%→78.6%)
- ・中学年…大事どころはどこかを考えながら読むことのできる児童が増えた。(10.8%増)
- ・高学年…説明文などを進んで読み取ろうとする児童が増え、読む上で大切な言葉に視点を持って読むようになってきた。(53.7%→67.7%)

*仮説2に関して

- ・GTを招くことにより、児童の興味が高まり、人との関わりが深まった。
- ・毎時間の振り返りカード、ポートフォリオなどの活用により、自分の考えを素直に表現したり、自分の活動を見つめながら自己評価ができるようになった。
- ・少人数グループで児童が様々な活動に取り組む中で、教師とGTが一丸となって支援を加えることより、児童が主体的に課題を見つけたり、課題を追究できるようになった。

*仮説1, 2を通して

- ・国語の領域「C読むこと」での学習効果が総合的な学習での様々な活動過程の中で現れてきた。(例…事前に国語で話し合いの仕方などの学習をしてから活動に入ることにより、言葉遣いに気を付けたり、聞きたいことの要点をまとめたりして自信を持ってGTに質問することができ、普段自分の考えを文章に書いたり話したりすることが苦手な児童も、感動や喜びを持って表現できるようになってきた。)

2. 今後の課題

- ・領域「C読むこと」の学習は個人差が大きい。一人一人の学力の基礎・基本の定着を図るためにも、各学年の発達や個人差を踏まえながら、学校全体での取り組み等も工夫していかなければならない。(学校オープンでの漢字学習など)
- ・総合的な学習の中で、各学年の活動場面を発達段階に応じてどう組んでいくかを検討しながら、年間指導計画の修正や、学校としての全体計画の作成が必要である。
- ・国語科と総合的な学習のねらいの違いを踏まえ、活動計画の中などで相互の関連を明確に示していく必要がある。総合的な学習の中で、国語科で学んだことが生きるのだということを児童に実感させるために、さらに指導過程などを工夫していかなければならない。

IV 学力等把握のための学校としての取組み

1 児童の学習意欲調査 (国語科)

調査の目的 児童の国語科の関心・意欲の変容を探るため

実施内容 国語科の全体及び領域ごとの指導要領の内容に即した質問項目

時期 毎年度6月と2月

2 千葉県標準学力検査 (国語・社会・算数・理科)

調査の目的 各児童の学力の定着を捉え、各教科指導の成果と課題を捉える資料とするため

実施内容 国語・社会・算数・理科
時 期 毎年度2月中旬

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 研究成果を普及のためのHPを作成していく。
- * 研究成果を普及のため、研究授業を町の他校の職員に参観してもらう。
- * 研究成果を普及のため、研究の成果等を町の全体研修会等で資料提供や研究発表をする。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無